

天神ノ森天満宮

天神ノ森天満宮は、平安時代に菅原道真公が筑紫に左遷された際、住吉明神に参詣の途中に休息したこの地に祠が祀られたことに始まると言われています。

その後、応永年間（1400年頃）に北野

天下茶屋跡お茶会に

いらっしゃーい



住吉名勝図会

天満宮の御分霊を奉斎しましたが、本殿（神殿）は、江戸時代前期の元禄15（1702）年7月に造営されたものです。

樹齢六百年を超えるくすの木の森は「天神ノ森」と呼ばれ、千利休の師にあたる武野紹鷗が当地に茶室を建て暮らし、たので「紹鷗の森」とも呼ばれました。



天下茶屋跡お茶会

秋には「天下茶屋道路愛護会」がお茶会を開催しています。



豊臣秀吉が堺政所を往來する途中、天満宮西側の茶店で休息し、この付近の風景を愛でたことから、殿下の茶店「天下茶屋」と知られることになり、「天下茶屋天満宮」、「紹鷗天満宮」と呼ばれていました。

また、境内には子安石があり、古くから安産の神として信仰され、「子安天満宮」とも呼ばれます。

はじめに、来賓や代表者が、神様に玉串を捧げる神事をおこない、その後、みんなが楽しめるお茶会が始まります。

お世話する愛護会寺田会長は「1席300円で、抹茶とお茶菓子をお出しします。今年400名ほどの参加でし



表千家岡田宗光先生、田中宗喜先生のおもてなし。

た」とのこと。かつてこの場所でも豊臣秀吉もお茶を愛でられたとか？（竹内）



資料「天満宮」出緒緒記より



子安石

ギャラリー見る倉庫



天神ノ森天満宮から北へ歩いて数分のところにBatterie。見る倉庫。があります。

「ゆづのゆうデーセンター夢飛行」の重い障が

いがある方々と地域とのアートを通じた交流の場をめざし、古い倉庫をリノベーションして2010年に開設しました。ギャラリー担当の納富太郎さんら福祉スタッフで運営、生活介護施設としての生活の場と、アート表現の場が並存しています。

当初は施設利用者の創作活動によるビー玉アート作品などの展示をしていましたが、現在ではさまざまな芸術活動の発表の場に活用されています。



年間20回ほどの個展を開催。随時、展示希望を受付中で、出展は無料です。日祝休。



納富太郎さん



● galerie “見る倉庫”

特定非営利活動法人 W・I・N・G 路をはこぶ事務局
西成区岸里東 1-5-25 ☎ 06-6656-1280

● フリースペース “Tamariba” 西成区岸里 3-8-25



ビー玉アート

半畳ほどの厚紙の上に、いろんな絵の具付きのビー玉を転がし、スイングしながらゴロゴロ…。その軌跡が重なり、障がい当事者、来場者の「つながり」でアートな作品に仕上がります。

※本誌、カラー頁の背景画に作品をご提供いただきました。



フリースペース

Tamariba (たまりば)

施設利用者と地域との自然な交流を目的に、フリーマーケットやコンサート、映画上映会、キッズクラブ（児童対象）、かえっこバザールなどのイベントを開催しています。



ちんでん沿いに
11月OPEN

● 西成区岸里東 2-1-1

☎ 080-1464-1362

水～土・11:30～18:00